

# 指扇小だより

教育目標 **やり抜く子の育成**

かしこく やさしく たくましく あたたく

令和8年2月27日 第11号

さいたま市立指扇小学校

〒331-0078

さいたま市西区西大宮1丁目49-6

電話 048-623-0133 FAX 048-624-2200

<https://sashiogi-e.saitama-city.ed.jp>

## 学<sup>よろこ</sup>びて時に之を習う、また悦ばしからずや

校長 小松 伸弘

5・6年生がお別れ綱引き大会をしました。



校庭の空気にも少しづつ春の気配が感じられるようになりました。一年のまとめの時期をむかえ、学校の中にも穏やかな雰囲気広がっています。

先日の授業参観・懇談会では、多くの保護者の皆様に御参加いただき、ありがとうございます。子どもたちも成長した姿を見せようと一生懸命準備してきました。日頃の御家庭と地域の御支援に、感謝申し上げます。

さて、子どもたちは間もなく進級・進学を迎えますが、小・中学校の義務教育9年間の学びにはいくつかの節目があります。算数で言えば、学年が上がるにつれて、数の考え方に節目が現れます。そのひとつが分数の計算です。

分数は、生活の中で生まれた古くからある考え方です。分けたひとつ分をもとに考えるため、例えば $\frac{1}{2}$ のケーキと $\frac{1}{3}$ のケーキのように分け方が異なるものを扱う場合、もとになる大きさを揃える操作が必要となります（この場合は $\frac{1}{6}$ で揃えます）。この操作が難しいため、分数の計算は、かつては限られた人が知っていればよいものとされてきました。「通分」「約分」という言葉を聞いて思わず頭を抱えてしまう子がいるのも、無理のないことなのです。

その難しさを補うために発明されたのが小数です。10等分すれば小さい数も大きい数と同じように扱うことができます。小数のおかげで多くの方が簡単に計算できるようになりました。

ただし、小数にも限界があります。 $\frac{1}{3}$ のように割り切れない数の場合、正確に答えを求められないのです。一方で分数は、数を正確に表しており、中学から始まる数学の基礎となります。現代社会は数学に支えられていますから、分数の考え方は、これからの学びを支える大切な土台とも言えます。数の歴史としては小数のほうが新しいのですが、学校では小数→分数の順に学習します。子どもの理解の道筋に沿った学び方だと言えるでしょう。

こうした考え方の節目はどの学年、どの教科にもあります。各教科の学習指導要領が、子どもの発達段階に応じて無理なく学べるように学習内容を位置づけているからです。

とはいえ、すぐに分からなくても大丈夫。脳の成長は人それぞれですから、授業中に理解できなくても、成長に連れて自然と分かってくる場合があります。また、すでに知っていることも、新しいことを習ってから復習するとさらによく分かることもあります。新しいことを学んで世界が広がる、習ったことをふり返って理解が深まる、それが学ぶ楽しさです。私たち教員もまた、子どもに教えつつ学びを深める場面が数多くあります。『学<sup>よろこ</sup>びて時に之を習う』です。

どの学年の子も好奇心をエネルギーにして、これから始まる新しい学びに一步を踏み出す勇気を得られるよう、私たちもともに寄り添い、支えていきたいと思います。